

第 27 回 小豆島町総合教育会議

【日時・場所】

- 開催日時 令和 5 年 11 月 20 日（月） 午後 1 時 27 分～午後 2 時 20 分
- 開催場所 役場本館 3 階 大会議室
- 出席者 大江町長、坂東教育長、真砂委員、大石委員、照下委員、中川委員
- 同席者 **【町職員】**
谷本副町長、山口総務課長、古郷こども教育課長、出水こども教育課主幹、
小野こども教育課課長補佐
【教育関係者】
長林小豆島中央高校校長、大山小豆島中学校校長、平野池田小学校校長、林
星城小学校校長、伊丹安田小学校校長、大山苗羽小学校校長、中本こどもセ
ンターセンター長、入倉星城・安田・苗羽幼稚園園長、三好旭・福田幼稚園
園長、山口内海保育所所長、慈氏せいけんじこども園園長

- 傍聴者 7 名
- 事務局 3 名

【内 容】

〔山口課長〕

ご案内の時刻より少し早いですが、ただいまから小豆島町総合教育会議を開催します。議事までの進行を務めます、参事兼総務課長の山口です。よろしくお願ひします。

総合教育会議については、本日が 27 回目の開催となります。会議は構成員であります町長、教育長、教育委員の 6 名で行うこととしております。

それでは、小豆島町総合教育会議規則第 4 条第 1 項の規定により、総合教育会議は町長が招集し、議長となりますことから、この後の議事進行については、大江町長にお願いをいたします。

〔大江町長〕

皆さんこんにちは。本日は大変お忙しい中、総合教育会議にご出席をいただきましてありがとうございます。

本日は、内海地区小学校の統合の整備方針について、ご意見をちょうだいするためにお集まりいただいたわけですが、統合が必要となった一つの要因であります少子化の状況について、母子手帳の交付状況から、本年度中に出生が見込まれる子どもの数は 41 人でありまして、過去 3 年間の 50 人台より、さらに減少する見込みとなっております、統合が急がれる状況となっております。

小学校統合の進捗状況につきましては、昨年12月以降、県と高校跡地の用地交渉を重ねて参りまして、一定の合意形成を得ることができました。

最終決定には至っておりませんが、決定後速やかに次の業務に取りかけられるよう、先般基本計画の策定業務を発注したところでございます。

本日の会議では、旧小豆島高校の跡地が取得できることを前提として、統合小学校を新築するのか、また小豆島中学校を移転して、現在の中学校を統合小学校とするのかについて、それぞれのメリット、デメリットなどを比較検討しながら、ご意見をちょうだいして、整備方針を決定していきたいと思っております。

冒頭に申し上げましたように少子化の流れは続いておりまして、小学校統合は待ったなしの状況でございますので、本日は忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。

それでは早速ですが、統合小学校整備方針について事務局から説明をお願いいたします。

【小野補佐】

失礼します。こども教育課の小野と申します。よろしく願いいたします。お手元の資料で説明をさせていただきます。座って失礼します。

内海地区統合小学校整備事業ということで資料を作っております。

まず1枚めくっていただきまして、事業の進捗状況でございます。

町長からもございましたが、旧小豆島高校跡地の利用について、香川県の協力の見通しが立ったということで、基本計画策定業務を発注いたしました。先月10月26日に開札をいたしましてここに書いております通り、受注者は、有限会社中村建築設計事務所が落札をいたしました。契約金額は、1,375万円でございます。業務期間については11月2日から今年度末、令和6年3月31日までとしております。業務内容は基本計画策定業務一式と書いておりますが、具体的には、施設配置計画の検討、想定される児童生徒数から教室数でありますとか、必要な面積等々を決定していきます。

それとあとは、この中学校の改修計画で統合小学校にするためにどういった改修が必要なのかという計画も洗い出して参ります。それと、あとは開校までのスケジュールです。どういった業務が必要になってくるのか工事が必要なのか、というのを立てて参ります。それと概算事業費の算出もここで行っていこうと考えております。

次の整備用地の購入につきましては、ここには香川県と交渉中と書かせていただいております。面積といたしましては、3万8,284㎡でございます。これについても先ほど申し上げましたが協力を得られるものと考えてございます。

次のページをお願いいたします。

現在の旧小豆島高校跡地、香川県により校舎の解体工事をして参りましたが、このほど完了しております。

現在の状況をお伝えいたします。ご覧の通りですが、まず真ん中の校舎や体育館があった場所でございます。これについてはすべて解体撤去いたしまして、砕石敷きの一体の用地となっております。

北側に少し段をあげるような感じなるんですが、グラウンドがあったところです。ここについては、芝生敷と書いてありますが、グラウンドの部分は芝を敷いております。これが約5,000㎡ということでございます。

それと西側の体育館については、これはそのまま残っております。現在このような状況になっております。

それでは、次のページをお願いいたします。

ここで改めてこれまでの学校整備場所の検討の経過について確認をしたいと思っております。まず1番です。内海地区小学校の統合方針については、令和4年6月に町議会において、町長の政策方針で統合を進めていくということで確認済みということでございます。それを受けての、7月の総合教育会議でも、このことについて言及されております。

次に統合小学校の建設場所についてでございますが、その次の第24回総合教育会議で候補地をいくつか挙げて、その安全性や経済性などを比較しながら検討して、矢印の下、小高跡地の香川県の協力を前提として、2つの案に絞り込まれたという、現在の状況でございます。それが資料の左側1の中学校の押し出し案です。これは現在の小豆島中学校を改修して統合小学校とし、その結果、中学校を移転して整備するという案でございます。それと2の統合小新築案については、小豆島高校跡地に小学校を新築で整備するという案でございます。

次の4ページをお願いいたします。

その2案について、どういった整備が必要になってくるかを示しております。学校施設の整備概要です。

まず1の中学校の押し出し案、中学校の移転についてです。

これについては、中学校を整備するのであれば、校舎に必要な面積が法律で定められております。これが5,261㎡でございますので、下回るわけにはいきませんので、それを少し上回る5,400㎡、延床の面積がいるのではないかと考えております。

体育館については、既存の高校の体育館を改修して、使う形になると思っております。体育館については平成元年にできたものですので、かなり全面的な改修が必要と思っております。

その下の部活動施設については、中学校を新たに整備することになりますので、部活動関係施設をある程度は整備する必要があると思っております。これはテニスコート、柔剣道場、部室棟、野球部も活動ができるようにネット、夜間照明も整備が必要になってくると思っております。

その他の施設といたしましては、駐輪場です。これが自転車通学に必ず必要になってくると。あとは駐車場、校庭緑地等になってくると思っております。

それと、一番下の現中学校の改修です。これが必ず必要になって参ります。中学校を小学校にするために、まず必要になってくるのが、例えば各教室の後ろには今の教室でも棚は整備されていますが、小学校の場合はランドセル、お道具箱、その他に荷物がいっぱいありますので、そういったものを整理する棚が必要であります。

あと、小学校の場合は、手洗い場を今の数、中学校の数よりは増やさないといけないということでございます。

トイレについては、あまり改修は必要ないのかなとは思いますが、若干やはり手を入れられないといけないのかなと思っております。

それと、階段は、蹴上げの高さがある一定以上であれば階段を丸ごと改修しないといけないですが、今のところ手すりを増設することで対応できると考えております。

これらについては今、発注しております計画策定業務の中で、詳細を詰めていく予定で

ございます。

次に資料の右側、統合小学校の新築案でございます。

小学校の場合は必要面積が少し小さくなります。必要面積は4,859㎡でございます。これについても、それを少し上回る大きさということで、約5,000㎡程度になると思っております。体育館については、中学校押し出し案と同じで、既存施設の改修で対応できると思っております。

あとは小学校ですので、プールが必要になってくると考えてます。この大きさについては、25メートルプール、現在各小学校で整備されてるものと同程度の大きさで、問題ないと思っております。

その他施設といたしまして、特徴的なものとしてはビオトープ、生き物が暮らす場所という意味ですけれども、池があったり、小学校の場合は中学校に比べて、自然を学ぶための環境づくりが必要になってくると思っております。

その下の参考といたしまして、将来的に小中学校を併設した場合と書いていますが、これについては、さらに将来の話になりますが、もう1つ体育館がないといけないとか、給食センターは、現在、中学校に併設してありますが、その給食センターが平成12年に改築しておりますので、これについても、将来的な統合のタイミングで移転整備する必要が出てくるのではないかとということで記載しております。

次のページをお願いいたします。

案ごとに想定される効果ということで、メリットデメリットを簡単にピックアップしております。

まず中学校押し出し案のメリットでございますが、まず一番大きなものが、部活動をこの敷地の中で完結できるということかと思っております。

今現在、ご承知のように、野球部、サッカー部、バレー部、あとテニス、バドミントンは授業が終わったら、スクールバスや自転車でBGまで移動して、部活動を行っております。この移動について。例えばスクールバスの便とか、先生も当然移動しないといけない等、生徒教師の双方に負担がかなり発生しておる状況でございます。これを解消できるということがかなり大きなメリットになると思っております。

その下、2つ目のメリットとしては、スクールバスの集約ができるというふうに記載してございます。小学校が現在の中学校の位置にできた場合、徒歩通学圏が比較的、統合小学校新設案に比べて広がります。あと中学校の部活動のBGへの移動の便数が大きく減りますので、小学校のスクールバスの便数があまり増えることなく、中学校のスクールバスを減らすことができるのではないかと考えております。

次に統合小学校の新築案のメリットでございます。1つ目は、児童へより良好な学習環境の提供ができることとしております。児童数の減少、施設の老朽化が統合によって解消すべき大きな点でございますので、それを考えましたら、やはり新しい土地に校舎を整備するというのが、より良い環境を提供できるということに繋がるのではないかと考えております。

それに今から設計に入って参りますので、現場の先生方が抱えてらっしゃる課題ですとか、そういったものにも柔軟に対応できるのではないかと考えてございます。

次のメリットは、統合による中学校現場の負担がないとしております。これは、いずれ将来的に、両方が併設ということになれば、小学校、中学校にしても、引っ越しは、発生

してしまいますが、たちまち中学校については、その校内の改修であるとか、引っ越しとか、そういったものが発生しないということで負担がないということでございます。

次に資料の左下、中学校押し出し案のデメリットの方です。

まず、現中学校の改修費用が必要になるということでございます。これも小学校が新しく新築されるのであれば、費用の発生がそもそもしないということでございます。

次の2番目、中学校現場の負担が発生するとしております。統合小学校新築案でも申しましたが、中学校現場の負担がないということになってはいますが、どうしても負担が発生してしまいます。引っ越し作業ですとか、システムの再構築等といったものでございます。

次に右側、統合小学校新築案のデメリットでございます。これについても、スクールバスというものが1つ大きなネックになってくると思います。今でも各方面にかなりの台数が出ていますが、さらに、坂手苗羽方面とか、西村の下校便、これについては間違いなく増便になるだろうと、これは避けられないだろうなと思っております。

それと次です。その下、中学校部活動等の効率化ができない点です。これも中学校押し出し案のメリットでも申しましたが、これはかなり大きなところであり、ぜひ解消したいところではないかと思っております。

次のページをお願いいたします。統合小学校（中学校移転）開校までのスケジュールとしております。

これが現在、想定しております最短の開校までのスケジュールでございます。現在、令和5年度に基本計画を策定作業に入っておりますので、完成しましたらその計画案を公表いたしまして、速やかに、今度は設計に入っていくということになります。

今想定しておりますのは、小豆島高校跡地は、解体も終了しておりますし、地盤も大変良い地盤であると調査会社からも報告を受けてますので、大掛かりな造成とか、そういった工事をしなくても良いと、速やかに本体工事に着手できると考えております。となれば、令和7年度中にも工事に着手して、大体12か月から15か月間の工事期間を経て、令和9年の4月には開校ができるのではないかと考えております。

次からの資料については、参考資料としてご覧いただきたいんですが、現在の小学校施設の現況でございます。内海地区の3小学校につきましては建築年数、すべて50年以上経っている状況でございます。

次のページにつきましては、小学校児童数の推計表となっております。右から3番目、令和9年度、これが先ほど申し上げました最短のスケジュールでいったら、ここに書いてある児童数が、統合小学校の児童数ということになります。大体267名ということでございます。

事務局からの説明については、以上とさせていただきます。

【大江町長】

それでは委員の皆さん方に意見をお伺いしたいと思いますけれども、その前に教育委員会で各校長先生のご意見を事前に伺っておりますので、それについて坂東委員からご報告をいたします。

【坂東教育長】

旧小高跡地に小学校を建設するのであれば、令和 8 年度の建築で令和 9 年 4 月に統合小学校が開校、もし中学校が移転するのであれば、中学校が令和 9 年 4 月に開校して、意見を聞いた時点ではその後 1 年間かけて中学校を改修して、統合小学校は令和 10 年 4 月に開校という前提で、各小中学校の校長先生にご意見をお聞き取りしました。

その結果につきましては、将来的に小高跡地に小学校と中学校が併設する方針であるならば、できれば小中学校を同時に建設して欲しいという意見が半数程度ありました。ただ、財政的とか時期的に、同時建設が無理であるならば、先に小高跡地に小学校という意見が多かったです。

小学校という意見の理由については、小高跡地に小学校中学校を併設する時期が 10 年以内であれば、当然先に小学校が良いと。中学校が行って小学校ということであれば、10 年以内に 2 回の引っ越しは非常に大変であるという意見がありました。

また各小学校、星城、安田、苗羽の校舎が大変老朽化しており、統合は 1 年でも早い方が良いと。また現在の小学校を現在の小豆島中学校校舎にするならば、小学校校舎に転用する改修費が、小高跡地へ小学校が行けば改修費が不要になるという意見でした。

もう 1 点、中学校という意見につきましては、小高跡地に小学校中学校を併設する時期が、10 年以上先になるのであれば、中学校が先に。小高跡地に中学校でよいのではないかという意見です。

現在の中学校の場所が比較的中心部にあるため、小学校として先ほどもありましたけど、スクールバス等を含めて、通学面で徒歩通学の範囲が広くて、スクールバスが少なくてよい。もう 1 点、これも先ほどもありましたけど、中学校の部活動が学校内で実施できることにより、生徒の負担軽減、教職員の働き方改革のためには中学校がよいという意見がありました。

校長先生の聞き取り結果については以上です。

【大江町長】

資料の最終ページの 9 ページに児童数の推移が載っているとありますが、令和 9 年の 1 年生 54 人、この方が令和 2 年に生まれた方、令和 2 年から令和 4 年度までが 50 人台ということで令和 10 年度は 50 人、令和 11 年度は 58 人が 1 年生ということで、令和 12 年度になると今の見込みでは 1 年生が 41 人というふうな数字になって参ります。

それで、複式学級の基準が 16 人、小学校 1 年生を含む場合は 8 人ということなので、この表を見ると令和 9 年は何とか免れるんですけども、令和 10 年で 2 年と 3 年生が合わせて 15 人と、このあたりで複式が視野に入ってくるような数字になっております。

こういったことも踏まえまして委員の皆さんにご意見をちょうだいしたいと思います。真砂委員いかがでしょうか。

【真砂委員】

今、詳しくいろいろ説明を受けたのを聞いて、結論から言えば、小学校が先に行った方がいいのではないかと私は思います。費用面、児童数の減少。それから、小学校が中学校の跡地に行くと、プールの利用が B G になるだろうということも考えると、それから中学校においても部活動がやりやすくなるというのは事実ですけど、部活動自体その生徒が少

なくなってくると、部活動の数も減ってきて、部活動を見直していかないといけないような状況になってくるということも考えます。

そう考えると、小学校が先に行く方がいいのではないかと思います。以上です。

【大江町長】

大石委員、いかがでしょう。

【大石委員】

随分悩ましいことなのですが、最初は中学校が先ということをおっしゃってくださったんですけども。というのが随分前の案で、そういうふうなのが出てまして。ただこれだけ小学校の児童数が減ってきて、各学校を回っていると、施設設備の老朽化が非常に激しいなというのを身にしみ感じておりまして、早く小学校の子どもたちに新しい環境で学習をして欲しいという気持ちがわいて参りました。先ほど真砂委員さんからプールの件も出ましたけども、そのことも気になります。

結論として、小学校が先の方がいいのではないかなというふうに思います。私も何度か統合を経験してきましたけど、現場の先生方は、どういう結果になっても、結果が最善の成果を生むように努力してくれると思いますので、こちらとしても、精一杯のできる限りの環境を整えたいなと思っております。

結論としては小学校かなという、苦渋の決断ですけど。

【大江町長】

以前は、例えば小学校を高校跡地に移転する場合は、小学校が、中学校が移転する場合は、中学校が先に引っ越しして、その後1年かけて改修して、1年後に小学校が開校というようなことをお示ししていたと思います。

それについては違うような方法も検討しておりますので、教育長からご説明します。

【坂東教育長】

先ほど私から校長先生の意見をお話した時の前提でお話したんですけど、中学校が行く場合は、小学校の統合が1年遅れるという前提で考えてました。ただ今回、基本設計の策定業務を発注する経緯の中で、中学校を先に建てても、同時期に統合小学校にできるのではないかということ、今回の基本計画の中で検討したいと考えております。

というのも、意外と階段の改修についても、大幅に大規模な工事をする必要がある前提でありましたが、基本的には現在の階段の高さからいうと、今の片側手すりを、両側手すりに改修する程度で良いとか、あと工事の内容についても比較的軽微であるという話が出てきました。

という中で、例えば手すりについては、中学校の夏休みや冬休みを利用して、前年に手すりの改修工事が実施できるとか、手洗い等についても、その春休みの期間とか、少し遅くなりますけど、開校してからの夏休みを利用するとか。ですから今の基本計画のコンサルと協議になるんですけど、その中では、中学校が移転して、令和9年4月に開校しても、同時期の令和9年4月に小学校も開校できるのではないかということ、至急検討して結果を出したいというところで、開校時期については少し検討の余地があるというふうに

考えております。

【大江町長】

教育長の方からお話しましたように、仮に中学校が行く場合でも小中、同じ時期に開校が可能ではないかというような、今現在、コンサルの方からご指摘もいただいておりますので、それらも踏まえて中川委員さんいかがでしょうか。

【中川委員】

本当にずっと考えてるんですけど、どちらもいいところもあるし、悪いところというか。例えば、小学校を今の中学校跡地にすると、場所的にいいのかなと思ったり、中学校が先に行くと、部活動とかそういう面に関してはいいのかなと思ってたんですが、先ほど真砂委員さんが言われたように中学校の人数も減ってくる、部活動の数もひょっとして減ってくるとすると、無理に先に中学校が行くっていうのも、どうなのかなと思ったりもしています。

場所はどちらとも言えないんですが、費用とか引っ越しとかそういう細かいところも含めて、小学校を先にして、プール等を作っていたほうがいいのかなと思います。

【大江町長】

照下委員さんいかがでしょう。

【照下委員】

小中学校を同時にしていただきたいんですが、それが無理であれば、こちらの中学校を先に持っていく中学校押し出し案の方がいいかなあと。

でも、これ本当に難しいですよ。みんなこう上手くこうまとめて書いてくれてるんですけど、非常に迷ってるところなんです。部活動が1箇所できるとかいうメリットがあっていいのかなと思ったりもしますし、統合小学校がいきなりちょっと町の郊外へ行くと小学生が抜け出した場合に、周りの人の目がないので困るかなと思ったり、そういう子どもはいないと思うんですけども、そういうことを想像してみたりしました。

【大江町長】

坂東委員はいかがでしょう。

【坂東教育長】

最初に結論から言うと私も以前の平成29年の教育大綱作った経緯があるんで、もともと小高跡地に中学校という考えでした。その中で令和2年度以降、出生数が減る中で、この夏頃は小学校でもいいのかなと迷った時期はあるんですけど、現時点で最終的には中学校を移転する方がいいと思っています。

その理由については先ほどから出てますけど、中学校の部活動で真砂委員と中川委員から中学校の部活動について見直すという話があったんですけども、現実、今のまま現在の中学校は現在13の部活動があって非常に多い30人とかいう部活動もあれば、1桁台の部活動、1、2人という部活動もあります。ただそういう中で現状ではなかなかこの部活動の数を減らすとか、そういうことが非常に難しいと思っています。

そういう意味で小高跡地に中学校が移転する際に、思い切って部活動改革を行うというのが1つのきっかけになるのかなど。その上で、私の教育長の立場としたら、教員の働き方改革という面、あと生徒の負担軽減という面から、やはり同一敷地内で部活動を完結したいという気持ちが強いということです。

あと照下委員からありましたけど、現在の中学校を小学校にすれば、基本的にスクールバスが少なくて徒歩通学の範囲がある程度確保できるということが非常に大きいと考えています。場所的にも、もともと旧内海地区の方は、年齢を重ねたら中学、高校は1箇所、各地区に3小学校があったんですけど、そういうイメージといたら曖昧になるんですけど、やはり小高跡地に中学校が移転して、今のこの真ん中にある中学校が統合小学校と考えています。

小中を小高跡地に併設というのは、先ほど校長先生の方からも10年という話があったんですが、小中が一緒になるのには時間がかかるのではないかと考えていますので、小高跡地に中学校を、現在の中学校を小学校ということが先ほど町長からありましたけど、できたら今の業務委託の中で令和9年4月の同時開校を目指していきたいと考えています。

【大江町長】

それとこれは小野補佐から答えた方がいいかな。補助金の関係。例えば、先に中学校が行った場合と、小学校行った場合とで違いがあると思うが。

【小野補佐】

整備に関する国庫補助について簡単に説明させていただきます。

まず小学校を新築する場合ですが、これについては、その必要面積、先ほど申し上げましたが必要面積に応じて国から補助金が負担されます。また、中学校を押し出す場合は、中学校の校舎を建てるんですけど、それは小学校の統合によるものということで、これも小学校の必要面積に応じて負担金が交付されます。ということで金額が同じになります。どちらの場合にしても、ほぼ近い国庫の負担金が得られるということでございます。

それと、中学校を小学校にするために必要な改修経費です。これも、国の方から補助金が2分の1交付されます。

ただ、2つが同時に行くとなれば、2つ分は負担金は出ません。小学校の部分だけしか交付されないというふうに考えております。県にも確認したんですが、そうなる予定でございませぬ。

将来的に中学校が行く場合に、これがすぐに行くということであつたら、補助金、交付金はないんですが、施設が老朽化するとか、そういった場合であれば、交付金の対象になる可能性はございます。

【大江町長】

大体ご意見を伺いましたけど、3人が小学校ということだろうと思うんですけど、私の考えを申しますと、私は中学校が先に行った方がいいかなという今現在考えを持っております。それは坂東教育長が申し上げた理由のとおりですけれども、もう1つは、ゆくゆく10年先、20年先、どういった生徒数になるのかというのが読めない中で、仮に池田小学

校も万が一、60人とか70人に減ってしまうようなことがあった場合、さてどうするかいうことであり、仮に中学校が先に行く場合ですと、今度、もしかしたら内海統合小学校と池田小学校が統合すると、この統合小学校の補助金がもらえる。

ところが、小学校が先となると、そこに池田が来ればということになってしまいますので、すべて町費負担になってしまいます。そういったことも踏まえて、やっぱり中学校が先に行くのがいいんじゃないかなと私は思っています。それも踏まえて、再度皆さんに、今度は坂東教育長から、ご意見を伺えたらと思います。

【坂東教育長】

できたら、今日、小高跡地にどちらかに決定したいという意味では、先ほど申し上げたように、中学校というふうに考えています。

ただ先ほど、要は小学校の開校時期、1年遅れるのなら1年でも早いほうがいいということもあって小学校が先という意見もあったと思うんですけども、それは、現時点ではコンサルと協議中なので、非常に曖昧ですけども、教育委員会としたら、中学校を令和9年4月に開校、あわせて統合小学校も現在の中学校へ、中学校を改修して同じく令和9年4月に開校したいという方向でぜひ進めていきたいというふうに考えております。

【照下委員】

先ほども申しましたように、私としましては中学校、押し出し案で進めていっていただきたいなと思っております。

【中川委員】

もう自分も五分五分ですけど、例えば先ほどのお話で、池田小学校の人数が減ってしまう時に統合となった場合の補助金のお話をお聞きして、中学校押し出し案でもいいかなと思います。

【大石委員】

中学校の押し出し案の場合、プールの建設が気になります。体育の授業でBGのプールを活用するようになると思うんですけど、これはかなりずっと続くような形になるというのは気になるということで、そのあたり何とかいい工夫がないものかなということを考えます。

【坂東教育長】

プールについては非常に悩ましいと思っています。B & Gのプール体育館の建築は昭和57年だったと思うので建築後40年を超えています。ご承知のとおり、プールもかなり老朽化していますので、BGの体育館とプールのあり方も今現在協議中となっています。

そのあたりの関係もありますので、小高跡地に行けばプール建設は同時だと思うんですけど、現在の中学校にする時にも、プールの建設について、十分に学校現場の意見も聞きながら、またBGのプールの利用の仕方も含めて、子どもたちがプールで水泳の授業がきちんとできるように、前向きに考えたいと思っています。

【大石委員】

中学校押し出し案に小学校のプール建設も含めている、検討するということでよいか。

【坂東教育長】

私の立場としたら、当然もともと中学校にもこの国道側にプールがあったので、建設する場所がありますので、そのあたり同時にプールを建設するのか、BGのプールのあり方も含めて考えてはいきたいと思いますが、教育委員会としたら、現在の中学校にもプールを建設する方向でぜひ考えたいと思っています。

【真砂委員】

私もその1つプール関係があるのと、池田も含めた統合ということになると、それは10年以上先のことになるんですかね。そうなったときに、小豆島全体の人口が減って、土庄町と小豆島町が合併するようことになった時には、池田小学校区の例えば蒲生の子だったら、土庄の方に行くようになるじゃないですか。そういうこともあるなあと思うと、どうなのかっていうのが1つありますね。そのあたりが10年以内とか、それから先が見えない状態で小中併設になるという状況であれば、そういうところの心配もあるなあということがちょっと気になります。

補助金的に言えば、十分こっち来るときも補助の率は良くなるわけですよ。こっちもできて補助していただけて、小学校がこっち来て中学校が向こうという、両方補助があってなおかつ、池田も含めた統合の時にも補助がある状態でできますよってということで、費用面で言えば、この2回行くって事を考えて費用がたくさんかかると思ったら、そうではないっていうのはわかりました。

だから、何年になるか、その小中併設をするんだったら早いほうがいいと思うんですけど、それが10年以上先になると、そのあたりが難しいなというふうに今思っています。

【坂東教育長】

今真砂委員から中学校が先に行った場合、内海地区の小学校と池田小学校の統合時期とか、小高跡地に小中が併設される時期がいつごろかというお話があったんですけど、現状を申し上げますと、池田小学校は建築後、42、3年が経過すると思うんですが、昨年度に長寿命化改修工事を行い、耐震工事もしておりますし、長寿命化工事を実施したということは、今後、耐用年数的に言うと、あと30年ぐらいは校舎として十分利用できるという点が1点あります。

もう1点は今年の4月に池田小学校に隣接して、香川県立みんなの支援学校が開校しました。これは小豆地区の特別支援学校を希望する障害を持たれた子どもたち、またその保護者の強い要望によって、県に開校していただいたものと思っています。

これについても開校したばかりですので、当然池田小学校に隣接して、日常的に、池田小学校の交流がある。あと中央病院が近いとか、いろんな面を考えて、県がみんなの支援学校を開校していただいたという経緯もありますので、10年後に池田小学校を統合してなくすとかいうことが、なかなか難しいという点がもう1点。

あともう1点は資料の一番最後に児童数の推計表がありましたけど、内海地区の3小学校は、もう毎年右肩下がりで児童数が減っています。ところが池田小学校については令

和7年度に185人まで増えて、その後減少傾向にあるんですが、令和11年度でも150名の児童数になっています。この後どういうふうに移っていくか、横ばいになるのか、ずっと減っていくのか、今まだわかりませんが、池田小学校については、かなりの期間、数字的根拠はないんですけど、統合の目安に、小学校が100人切ったら統合検討するというふうな目安があると思うんですが、池田小学校については、かなり長期間にわたって児童数も確保できるのではないかと。そういう中で池田地区と、内海地区の小学校も一つに統合ということは、なかなかハードルが高いものと考えてます。

以上の3点から、池田小学校と内海地区の統合小学校の統合の時期というのは、私の肌感覚でいうと20年とか、もう少し長いスパンで検討すべき課題かなというふうに思っています。

【真砂委員】

そういうことをお聞きして、長いスパンで検討するのなら、小学校のプールをやはり20年先までBGへということはいかがなものかと。中学校が先だったら、プールの建設というのをどうするか早めに決めた方がいいんじゃないかなと。そういうことも踏まえてでしたら、私も中学校が先に行くということで、それはそれで、費用面から考えても問題はないかなと思いました。

【大江町長】

大石委員は、仮に小学校のプールが現在の中学校にできるとしたら、特段問題はないというようなことですかね。

【大石委員】

はい。一番気になるのはプールですね。

【大江町長】

いろいろとご意見ちょうだいしました。それと真砂委員がおっしゃってた町の合併の話ですけども、当然今は何の話も出ておりません。3町合併協議については平成12年に住民発議で合併協議会ができて、3町が協議しましたが折り合いがつかず、廃止になりました。またすぐに今度は行政主導で、合併協議会を立ち上げてそこも物別れに終わって、最終的に池田町と内海町の合併という経緯になったということです。

今、具体的な話は全く出ていませんけれども。島は一つというスローガンのもとに私も岡野町長も2町で力を合わせてできることは、力を合わせて一緒にやろうよ、というような話で進んでおります。ただ、住民の皆さんの意識が今統合に向いてるかということ、全くそういう段階にないということで、これも相当先になるだろうというふうに思っております。

皆さんからいろいろご意見をちょうだいしましたが、教育長と私の考え方は中学校に行くべきということで、皆さんの一番の懸念はプールができるかどうかという点、中学校の方を小学校に使うということで改修が当初を想定したより大幅に軽くて済むといったような点、それからスクールバスが非常に効率的になるという点などを考えますと、例えば、多少の改修費が初期投資として必要でも、スクールバスは経常経費として、以降ずっとかかってくる経費になります。それを考えると経費的にも、中学校が行った方がお

そらく有利だなというところから我々は中学校案を推しているわけでございます。

やはり委員の皆様が納得していただいて、中学校が先に行くべきだということであれば、もう今日、そういう方針を固めたいと思っておりますけれども、まだまだ議論が尽くせないところもあるかと思っておりますので、ひとまずは今日の意見を取りまとめた上で、再度ご意見をちょうだいして、次回は確実に整備方針として総合教育会議の案を決めさせていただきたいと思っております。

今日は意見をまずお聞きしてという形になりましたけれども、次回もうはっきりと決めたいと思っておりますので、次回までにそれぞれ資料お持ち帰りになって、また、それぞれの立場からご検討いただいて、次回、総合教育会議としての結論をまとめたいと思っております。

活発な議論をありがとうございました。なかなか意見を今日集約してしまうということには至りませんでしたけれども、次回に向けて、しっかりと課題も整理して、再度ご意見をちょうだいしたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

本日の総合教育会議はこれにて終了とさせていただきますけれども、次回、是非とも結論を得て、前に進めて参りたいというふうに思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

本日はありがとうございました。